

花巻市石鳥谷地域協議会 平成24年度第3回会議 会議録

【日 時】 平成24年11月21日（水）午後1時30分～午後3時20分

【場 所】 石鳥谷総合支所 旧議会棟 委員会室

【出席者】 出席委員：9名（欠席委員：6名 熊谷弘子、岩舘大輔、伊藤邦彦、樋口正洋、熊谷幸雄、佐々木さつき）

菅原昭造、似内英悦、高橋貢、立花英一、菅原久男、玉山規矩夫、藤根勝榮、藤原真紀男、晴山美紀子

事務局出席者（石鳥谷総合支所）：9名

菅原総合支所長、伊藤地域振興課長、熊谷市民サービス課長、関地域支援監、菅原地域振興課長補佐、高橋同課長補佐、小原市民サービス課長補佐、佐々木地域づくり係長、熊谷主査

【協 議】

○石鳥谷における地域課題について

- ・第2回会議において、地域課題の提案趣旨説明があった提案について、継続して協議した。

【その他】 会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配付資料は以下のとおり

第5期介護保険事業計画の概要〈保険料基準月額・施設整備〉

顛末

○ 進行／伊藤地域振興課長

1 開 会 似内英悦副会長が開会を宣した。13：30

2 挨 拶

菅原昭造会長

先般ご案内しました地域協議会の会議につきましては、都合により開催できなかったことにつきまして、せっかくご案内しながら開催できなかったことをお詫び申し上げます。

今日は、欠席の方が多いですが、集まった方々で十分協議して参りたいと思います。本日はよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

3 協 議

菅原昭造会長

今日は、勉強しながら皆さんの忌憚ないご意見をいただきながら、あるべき方向を皆さんで話し合いを進めていければと思っております。

第2回までに提案された事項について、再吟味という内容になっております。この資料の順序に進めてまいります。

最初の高齢者福祉につきましては、前回の事柄と関連して市役所から説明があります。最初をお願いいたします。

熊谷市民サービス課長

(資料「第5期介護保険事業計画の概要〈保険料基準月額・施設整備〉」について説明)

菅原昭造会長

今説明のあったことを含めて高齢者福祉について、課題の中の「増床されているが」ということを受けての市役所の説明でしたが、たとえば、「(入所を)早急に必要とされる人は138名です。」と説明されても、「早急」に限定すれば138名であって、実際はそれ以上の人がたくさん申し込みをしているため待機者が多数ということになるという現状の説明でした。

皆さんから、自由にご発言をお願いいたします。

高橋委員さん、この提案者でもありますが、現状とこの資料の数字を見て感想なり考え方なりをご発言いただけますか。

高橋貢委員

今のご説明は、入所待機者が全面的に解決されるわけではないという話で、家庭で介護するのは大変だからといって入所すると介護保険料に跳ね返るということがわかりました。実際は、在宅介護には難しい問題があるということです。

菅原昭造会長

誰しも、自宅での最期を迎えたくても、そうもいかない事情があつての施設入所だと思います。在宅介護のヘルパーも派遣していますが、介護職場は人材育成が急務となっています。しかし、早期退職者が多く職場の定着率が低いため苦慮しています。施設は「人」がいなければ成り立たないわけですから。

藤根勝榮委員

やめる人について、待遇はよくなっているのでしょうか。

菅原昭造会長

よくなっていますが、これで十分というのは難しいところだと思います。

似内英悦委員

私の職場も介護の職場ですが、はっきり言って3Kの職場だと思います。

待遇をよくするということは、経営が成り立たなくなるというジレンマに陥ります。介護報酬を上げてほしいということになり、すると介護保険料に響くということになるからです。会長さんがおっしゃったように、職場の定着率はよくありません。

菅原昭造会長

確かにきつい仕事ではありますが、人間関係でやめていくこともあります。

玉山規矩夫委員

介護保険を使ってサービスを受けることについて、保険料が高いとか、サービスを受ける側からは物足りないとかという話はわかるのですが、負担してもいいからもう少しサービスを受けたいという人もいますが、この辺の受け皿はどうなのでしょう。個人で対応しなければならないのでしょうか。

小原市民サービス課長補佐

(高齢者福祉サービスの種類について説明)

玉山規矩夫委員

それ以上のサービスとなるとやはり、民間でということになるんですね。家政婦協会とかそういうところを使わないとできないということですか。

菅原昭造会長

介護保険を使う人は要介護認定あるいは要支援に認定を受けている人ですが、介護認定にならない、未認定の人も結構いるわけです。そういう人は、いわゆる福祉ビジネスを利用しているようです。

玉山規矩夫委員

一人暮らしのような人は、その必要としている時間や内容が不規則なものだから、そこをカバーするのは、公のサービスだけでは足りないと感じていたところでした。

菅原昭造会長

高齢者福祉については、まず、認識を深めてもらうということで再提案させていただいています。この石鳥谷地域としてどうすればいいのでしょうか。入所施設について、石鳥谷地域はしばらくは現状維持ということになります。

藤根勝榮委員

介護職場をめざす若者もある中、現場が大変なのはわかるが職場に定着のため努力をお願いしたいと思います。

菅原昭造会長

いしどりや荘でも、1、2年で退職する人が一番多いのが実態です。毎月職安に募集を出しています。看護師も不足しています。

在宅介護にシフトしていますが、今後、石鳥谷地域の場合はどうしたらいいのでしょうか。

藤原眞紀男委員

施設にお世話になっている者の家族のひとりとして、施設に行ったときには、介護をしてくれる人へ感謝の言葉を表すように心がけています。

菅原昭造会長

ありがとうございました。ほかに、ご意見ありませんか。

この問題はよろしいでしょうか。この問題は、これらを踏まえて1月、2月で総括的に今後のあり方を議論することにしたいと思います。

「はい」という声多数。

菅原昭造会長

その次、酒まつりについて、その後の経過なりをお願いいたします。

伊藤地域振興課長

今年は、岩手デスティネーションキャンペーンの一環として、6月23日に実施いたしました。

菅原総合支所長

「酒まつり」は、現在「南部杜氏の里まつり」に名称が変わっておりまして、夜のパーティの参加は248名でございました。2千円の券を購入いただいたのパーティで、券は339枚の販売でした。昨年は、震災により清酒鑑評会がありませんでしたが、今年は復活し全国からのお酒171銘柄が南部杜氏を応援しようということでの企画に協力していただきました。

また、当日は、南部杜氏の里まつり昼の部ということで、道の駅の石鳥谷観光物産が企画し、生涯学習会館前の広場で三陸沿岸復興応援の海産物の販売コーナー、道の駅の物産コーナーのほか農産物などの販売を行いましたし、歌謡ショーなども開催されました。まちの駅の酒蔵交流館でも、同時企画ということで映画会が開催されました。

昼の部では千人を超える来場があり、これも今後続けて参りたいと思っております。夜のお酒だけのパーティだけでなく、もう少し地域を取り込んだイベントに拡大していこうというところがございます。

菅原昭造会長

多彩な催しが行われたということですね。

伊藤地域振興課長

開催当日は、旧花巻空港ターミナルビルの交流会館で「べつばらフェア」も行われており来場者が心配されておりましたが、それほどの影響はなかったと思っております。

菅原総合支所長

石鳥谷中央通り商店街では、年4回、酒蔵まつりを実施しております。今回はその春の陣をこれにぶつけて開催し、こちらを含めての来場者は1,500人となっております。かなりの盛況だったと思っております。

菅原昭造会長

こういうことだそうですが、提案者の藤根さんいかがでしょうか。

藤根勝榮委員

はい。私が言いたかったのは、県ではさらに4種類ほどの酒米を育種し、また、県の工業技術センターでは酵母を育種しましたので、もともと石鳥谷町が酒米の生産にいち早く着手したこともあるので、食用米の消費が伸び悩み減反が減らな

いなら、酒米の生産をして、杜氏さん方にこの米を使ってもらえるよう地域の産業として関わればどうかと思ったわけです。

今の農業は大変ですから、JAばかりでなく行政も関わって取り組めば、荒れた農地の対策だとか農家収入の対策になるのではないかということをお願いしたかったということです。

菅原昭造会長

提案の本旨は、藤根さんのお話のあったとおりということです。

藤根勝榮委員

県で、酒米の発表会がありました。いい酒米だということでした。幸い南部杜氏の方々が全国で活躍しているのですから、たくさんの岩手県の方が関わって、その素となるものも地元から供給できるような仕組みを作って、産地、特産品づくりということも、若者の農業への意欲につながるよう、南部杜氏の里と絡めていくこともひとつではという気がしておりました。

菅原昭造会長

ありがとうございました。このことは、1月、2月にかけての総体的なまとめの会議で、もう少し深めた議論をしてまいりたいと思います。継続的な協議とさせていただきます。大変大事な提案だと思います。ありがとうございました。

菅原昭造会長

はい、どうぞ。

立花英一委員

こうして各種関係者が実行委員会を作って酒まつりをここ何十年と実施していますが、市町村合併してからの人出とか、石鳥谷町民への周知について変化はしているのでしょうか。というのは、一生懸命やっているのに知らない町民が多いと感じていますので、もしかしたら宣伝不足かなと。花巻市内全体となって情報量が多いので石鳥谷の情報が埋没しているのか、その辺のPRの工夫がもっとも必要ではないかと思いますがいかがでしょう。

菅原総合支所長

合併前は、イベントのチラシなど区長を通じた全戸配布になっていましたが、現在は、地域イベントについてはその実行委員会で新聞チラシ、インターネット、ホームページなどでの周知をするといったことで、なかなか全戸配布は行われていないと思います。比べると、周知不足だとは思いますが。

立花英一委員

私たちの好地地区では、好地振興センターだよりが月2回発行されるそれだけです。それを見ない人は知らないということになります。

菅原昭造会長

つまり、石鳥谷地域という括りは中二階になってしまったということです。

立花英一委員

振興センターだより以外のPR。例えば、職員の方からの話題づくりなどの口コミの力の方が、大きいのではないかと思います。イベントが終わってから知らなかったということが多いです。私の感想ですけれども、今度何々があるといったわくわくするようなことが、以前よりなくなったような気がします。みなさんで、是非PRをすることが大事ではないかと感じています。

菅原昭造会長

石鳥谷地域協議会としては、石鳥谷地域の情報をきちっと知らせるような意見を出し合って、要望すべき点は要望するというようにしませんか。

「はい」という声あり。

菅原昭造会長

振興センター地域のことは振興センターだよりで、あとは市の広報で市全体のことを見て、石鳥谷地域に限定しての情報はなかなか目に入らないということですね。

立花英一委員

見ているかもしれないけれどその時だけで、別の機会にまた目に出し、話題になって記憶に残る。いろんな機会に情報があればと思います。

似内英悦委員

私が提案する地域内コミュニティ会議共同事業に乗った形にしてもいいと思います。各コミュニティで共同して酒まつりを盛り上げましょうとか。石鳥谷地域としての盛り上がりで、他の地域からも石鳥谷に行ってみようかということになればいいのではないかと思います。

藤根勝榮委員

地元が盛り上がらないとね。地元でのイベントなのに町外の方ばかりの来場ではなく、もっと周知して町の活性化のために地元の人たちが参加できるようにと思います。

藤原眞紀男委員

藤根さんのご提案のように、水、肥料、米等々、一貫してというのはとても面白いものができる可能性があると思います。是非継続テーマとして、何か道筋ができるのを期待しています。

菅原昭造会長

それでは、これも継続課題として詰めていきたいと思います。

権現堂山について、前回ほぼ話が出ましたが、現在はどうなっていますか。経過報告をお願いいたします。

高橋地域振興課長補佐

(現在の工事の進捗状況報告)

菅原昭造会長

登山者は結構あるものですか。

藤根勝榮委員

あります。子供たちも登っています。

行政、工事関係者にも一生懸命にやっていただいて感謝いたします。我々の現場の方の取り組みが大事なことだなと感じております。

菅原昭造会長

これも、現在進行形のことですけれども、そういう関心の高いことであるというのは事実でありますので、町民に知らせる必要がありますね。

この問題につきましては、具体的な提案がありまして、それに向かって進んでいるようですので、ご関係の方々のご努力に敬意を表したいと思ひますし、今後とも進めていただきたいと思います。あわせてこのことも地域協議会として協議しているということを是非ともお知らせするよう努力したいと思ひます。

次に、地域行事の現状についてということですが、樋口委員さんがいらしていませんが、いかがいたしますか。

伊藤地域振興課長

前回もそうでしたが、提案の基となる考え方というものは、今までも提案者からお話しいただいていたので、その趣旨、お考えを皆さんでお聞きしてからの方がいいのではないかと思います。

菅原昭造会長

はい、わかりました。3番4番については、樋口委員がいらしていないので、次回に譲りたいと思ひますがよろしいでしょうか。

「はい」という声あり。

菅原昭造会長

次は生涯学習についてということで、玉山委員さんからの提案であります、農業伝承館のこともありますし、このことについて皆さんからご意見を賜りたいと思います。ご発言をいただきたいと思います。まず、農業伝承館はどうなっていますか。

伊藤地域振興課長

(第2回資料により入館者数の状況報告)

藤根勝榮委員

農業講座などで農業伝承館を見ていただくと、初めてだと関心が高いのですが、1回行けば2回、3回と毎年行くことはあまりないと。ただし、関心がないわけではないので、そういう学習活動の一環として、はた織りについては生涯学習の一環として活用することで、活用が広がるのではないかなと思います。

菅原昭造会長

はい。玉山委員さんのお考えがあればお話ししたいのですが。

玉山規矩夫委員

伝承館でやっているのは、農機具展示の一環として古いはた織機を展示して農業の文化を伝えようということで始まったものらしいです。それは、市としてグリーンツーリズムや修学旅行の子供たちを受け入れて、だいぶ知名度も上がって喜ばれているようだと聞いています。

私が提案しているのは、合併前の花巻市で特に農村部の当時の公民館などに農業文化の伝承・趣味・生きがいの一環として、市の予算ではた織機を置いて専用の部屋もあるのに、どうして石鳥谷にはないのかという声があり、旧花巻市と同じように整備して希望者にやらせるべきではないかと思ったのですが、空き施設、部屋で長期にはた織機を置いて専用できる場所はありません。振興センターにももちろんありません。大きく言えば、花巻市の生涯学習課がどう考えるかということによると思います。

ここで、皆さんに認知していただきたいのは、そんなことより、もっと大きいことがあるのではないかというのであれば、ここで話すようなことではないのですが、全体的に見れば、石鳥谷の愛好者の数は、旧花巻市に負けないくらいの数があることは確かであり、それは、農業伝承館が、後継者育成を推奨してきたからだということです。育成してきているのに、その受皿を作ってこなかったことが問題点ではないかと思います。

菅原昭造会長

つまり、振興センター単位くらいに、はた織機があればいいという趣旨なので
すか。

玉山規矩夫委員

頷く。

菅原昭造会長

振興センターには、ないものですか。

関地域支援監

振興センター自体には、その部屋はないということをはっきりしています。そ
のほか、八日市の高齢者創作館がありますけれども、そこは別に、木彫りとか
陶芸教室などで頻繁に使われている施設でもあります。そこに改めてはた織機械
を持ち込んで固定化してしまうと、ほかの講座にも影響してしまうことにな
ります。それから、生涯学習会館はということになりますけれども、3階の部
屋とか、今使われていない部屋がありますけれども、公共施設の中ではそういう
ところくらいしかないかと思えます。

菅原昭造会長

はい。どうぞ。

菅原総合支所長

このはた織というのは、結構愛好者があり、またグリーンツーリズムできた
方々が体験するという機会があるわけですが、まだ確定ではないですが、
今の農業伝承館の今後の活用策について、教育委員会の方で検討中ですが、
玉山委員さんがおっしゃったようなはた織も常設で使えるような施設として考え
たいと、教育委員会で検討しているようです。生涯学習施設のひとつにしたいと
いうような話も出ています。

菅原昭造会長

今は、生涯学習施設ではないのですね。いかがですか、玉山さん。

玉山規矩夫委員

はい。

菅原昭造会長

はい、このことについて皆さんから後ご意見ありませんか。在る施設の有効活

用のいい道があれば、是非そちらへ誘導したいものだと思います。地域協議会の意見としてあげていくという、そういう決着の仕方によろしいでしょうか。

頷く者あり。

菅原昭造会長

共通事項が並んでおりますので、1枚に整理させていただきました。個別にお話し合いをいただいても結構であります。ご覧になって、イメージアップ戦略が多いわけですが、このことについてまとめて議論をいただきたいと思います。特に7番、9番のところですが。

似内英悦委員

この前の町人会の出席状況は、各コミュニティから参加したのですか。

伊藤地域振興課長

参加しました。新堀は文化祭があり参加できませんでした。

菅原昭造会長

このことは、地域協議会で話題にしてから5年かかりました。コミュニティ会議の連合体で共同事業として町人会に行ったということでもあります。内容を説明してくれませんか。

伊藤地域振興課長

(共同事業実施に至るまでの経過説明)

熊谷地域づくり係主査

(今年度の在京石鳥谷町人会総会への参加状況報告)

菅原昭造会長

いろいろと紆余曲折ありましたが、共同事業が軌道に乗りつつあるという報告であります。よかったと思っております。

それでは、このことを含めて、町のイメージアップあるいは、コミュニティ会議の共同事業について、ほかご意見ありませんか。

藤根委員さん、ここに書いてあること意外に補足することはありませんか。

藤根勝榮委員

ありませんが、どうしたらみんなが集まってくるか、ですね。花巻市になっても石鳥谷を盛り上げられればよいなと思います。

似内英悦委員

旧中央公民館（石鳥谷生涯学習会館）の利用状況はどうなっていますか。

菅原総合支所長

旧町時代のように職員がいて、社会教育・生涯学習の独自事業を展開しての拠点という時代ではなくなりました。まなび学園でも生涯学習事業はしていますが、今は、コミュニティ地区27振興センターでの生涯学習にシフトしています。生涯学習会館は、講座開設と貸館業務に特化してしまっていて、利用状況は、毎年の行事とか特定の団体等の利用などで、限られた部屋の利用になっているのではないかと思います。

菅原昭造会長

いつ行っても、医療センターの駐車場は満杯ですが、生涯学習会館の駐車場はがらがら、昔はその逆でしたね。

似内英悦委員

今、団塊の世代がリタイヤしている時代で、この団塊の世代が何かしようと集まるのは、各コミュニティもあるけれど、ひとつの町に集まってもいいのではないかと思います。団塊の世代の中には時間をもて余している者もいると思います。

たとえば、団塊の世代対策として、生涯学習会館の中に開放スペースがあってもいいのではないかと思います。組織立った教育というふうにはなっていないけれども、集まる場所があってもいいのではないかと感じました。

菅原昭造会長

なるほど、団塊の世代はみんな車を持っていますから、広い駐車場があればいいわけですね。コミュニティ単位の集まりだけでなくもね。

発想の転換をしてみませんか。昔のように趣味教養型で誰かが来て何かを教えますではなくて、教えられるのではなくして自分たちで何かに生きがいをもとめてやれるものがあれば、生涯学習会館の活用という発想も成り立つのではないかと思います。これをベースに仕組みを作っていくということですね。

これも、施設利用のひとつの面として皆さんで知恵を出し合いませんか。

藤根勝榮委員

花巻の生涯学園都市会館でもいろいろやっていますが、地域のことを学習するときはその地域へ出向いて学習してもらうのはどうですか。いつもまなび学園に集まらないと学習できないではなくて、地域の施設も活用するよう市全体で考えてもらってはどうかと思います。石鳥谷の人ばかりでの活用だけでなく、市全体としての活用も考えていくべきだと思います。

菅原昭造会長

はい。ありがとうございます。

想定された時間もあと少しになりますが、町のイメージアップ戦略、地域内のコミュニティの共同実施事業の2つについて、今日出た意見をベースにして意見を取りまとめてまいりたいと思います。

10番目、商店街の活性化について、それから今日は佐々木委員さんはみえていませんが、この2つについてご意見をいただきたいと思います。

晴山委員さんいかがですか。

晴山美紀子委員

やはり「ぷらっと（小さな百貨店）」は賑わっていますね。ああいう方法で駅前でも作ったり、もう一箇所あればと思います。具体的な場所は思いつかないのですが、行政の方で空き店舗がありますよとかそういう情報はないのでしょうか。

今、似内さんがおっしゃった団塊の世代の話ですが、団塊の世代は何かないかと待っているんだと思います。旅行をするにしても街歩きをするにしても。

街を歩いてみると気がつくことがありますね。

立花英一委員

そうですね。私は好地地区まちづくり委員会の教育振興部会ですが、今年、好地地内のいろんな歴史、史跡、旧跡を菊池邦雄さんの案内で歩いて見るという会を開催しました。本当に近場に行きましたが、普段車だと通り過ぎる風景が歩くと見えてきたりというものでした。参加者はほとんど高齢者でした。また行きたいという要望があり2回目を開催しました。

先ほど晴山さんが言ったとおり、楽しいことはみんな期待するし出席率もいいので次のことを心待ちにしている、そういうことが生きがいにもつながるのではないかと思います。

晴山美紀子委員

そういう（楽しい）ことが、商店街にもあればいいなと思っています。若い人たちががんばっているから応援したいと思います。鍋ワングランプリとかも良かったですね。もっと宣伝や運営を工夫すれば、去年の倍ぐらいは集まるのではないかと思います。

立花英一委員

商店街もそうですけれども、主催する側が予算がついたからとか、お金があるから何々しましょうとかという消化事業になってしまっただけでは続かないと思います。

20年程前に「土曜よ市」というのがあったんですが、まだそれを続けていればそれなりに石鳥谷の名物になったのではないかと考えています。主催する実行委員の中から「毎週はつらい」等の声があり無くなってしまいました。今言ったとお

り、する側の主催者が面白く、楽しくやらないと長続きもしないし、お客さんにも繋がらないと。いやいやながらやっているのが見えると、一生懸命やっている人達が一部でがんばっていても、それが波紋として広がっていないと感じます。一部だけではなく、みんなで楽しむのが人を集める秘訣かなと私は思っています。「人、動き、光、音」だと思います。少しくらいうるさくても、明るくて人が動いているとなると、お祭りのように行ってみたくなるという感じだと私は思っています。

菅原昭造会長

ありがとうございました。

総体的にもう少しご意見をいただきたいと思います。何でもいいです。石鳥谷地域として、何をどうすればいいのか。

藤原眞紀男委員

駅前に石鳥谷案内図というのがあります。案内図の記載が合併前の古いままになっています。石鳥谷の駅に降り立つ人がいて案内を見たとしても現在の表示とは全く違うわけです。これを見て気づかない行政、住民の町だと思ってしまうかもしれません。

以前から話をしていますようにわが町には、少女マンガ家の池野恋さんや、さいとうたかを氏もいらっしゃる。さいとうたかを氏は、紹介に花巻市石鳥谷町と、きちんと紹介してくれている。こういうマンガ家の方々の協力を得て、なんらかの観光案内図のようなものを作りませんか。そしてそのテーマは、各振興センター地域の主たるものをデザインしてというように、前回（平成23年度）まではそういう話し合いだったと思います。それを実行するかしないかになってくるわけですが、このように間違った表示のものがあるので、これを作りかえるというのもいいのではないのでしょうか。

もうひとつは、それに併せて石鳥谷駅で降りて大迫へ向かう観光客もあると思いますから、大迫の振興センターにも協力願って早池峰山や宿場のひな祭りとかを含めて広域での案内図をマンガ家の方々の力を借りて作りかえるのはいかがでしょうかと思うわけです。

菅原昭造会長

駅前にある案内板は、時代にそぐわない古い表示になっている。設置者を確認して訂正する。それはそれとして、新しい提案として本格的な新しい案内板を設置する必要がある。こういう提案であります。関係機関団体の連携を取りながら協力してこの問題は是非取り組んでいきたいものだと思っています。お互いに知恵を出し合いませんか。藤原さんそういうことですね。

藤原眞紀男委員

はい。

伊藤地域振興課長

こちらで確認と現状把握をします。以前にこの場でもお話のあった駅前ロータリーの広告塔と併せてこの活用について考えてまいりたいと思います。コミュニティの方への相談もあるかもしれませんが、よろしく願いいたします。

菅原昭造会長

はい。新しい提案がありますとやる気も起きますので、よろしく願いいたします。

4 そ の 他

菅原昭造会長

その他は何かありますか。

伊藤地域振興課長

ありません。

菅原昭造会長

それでは、会議をこの辺で閉めたいと思います。

(次回日程について、1月以降の開催で会長一任とすることを確認した。)

藤根勝榮委員

その他で、よろしいでしょうか。

菅原昭造会長

はい。

藤根勝榮委員

先般、石鳥谷町自治公民館連絡協議会の研修に参加しいいなと思いましたがご紹介します。市内の各地域に住んでいる市の職員が行政とのパイプ役になり行政との連絡調整を行っているという話がありました。市の職員の方には地域の方へも顔を出していただきたいと思っております。

もうひとつ、松くい虫被害が進んでいると感じています。松くい虫に強い耐性のある松の品種も出ていると聞いています。人が住んでいく大事な地域の自然環境を保全するため、耐性のあるアカマツの紹介や導入など公費を掛けなくてもこの地域で取り組んでいくことも考えてはどうかと思いました。

伊藤地域振興課長

ただいまの、松くい虫被害対策については、本庁の方で一括管理をしております。支所の職員としましては、現場の木を切る作業の段取りがほとんどであって、対策は全て本庁で行っております。

先般、紫波町との山火事対策の会議がありました。松くい虫の被害対策は、景観だけではなく、山火事防止の観点からも大切であるということで話し合われております。かつては、石鳥谷町が松くい虫の北限であったことがありますが、現在は、紫波町、盛岡市まで達しております。被害対策の国県の予算も松くい虫被害の前線への交付となり、市としての予算は限られたものとなっているのが実情です。松くい虫の被害は、景観だけでなく災害予防など複合的なものだと考えておりますので、この場でもこのことについて、情報提供をしてまいりたいと思います。

菅原昭造会長

今の話は、次の会議の時にでも、もう少し説明をお願いします。
それでは、後は事務局にお任せします。

5 閉 会 似内英悦副会長が閉会を宣した。15：20